

日本語とベトナム語 留学生らがスピーチ 名古屋でコンテスト

日本人とベトナム人の交流を深めるためのスピーチコンテストが二十日、名古屋市北区の愛知学院大名城公園キャンパスであり、留学生らが異国の生活で感じていることなどを来場者六十人の前で語った。

日本語とベトナム語の二部門があり、両国の学生らが登壇。それぞれ母語ではない言葉でスピーチした。

大阪大大学院で学ぶファム・フィ・ハイ・イエンさん(三毛)は、日本生まれの長女(六)との会話に悩んだ経験から、同大学院に入り直した経緯を紹介。外国籍の子どもへの母語教育の重要性を強調し、「生みの親(ベ

トナム)と育ての親(日本)の両方に感謝できるよう育てば、社会に役立つという気持ち芽生えるのではないか」と述べた。

コンテストは県ベトナム人協会などが初めて主催。県内を中心とした企業も招いた就職説明会も行い、学生とのマッチングを図った。
(齋藤雄介)